

令和 7 年 1 月 17 日

第 13 期第 5 回温暖化・エネルギー部会議事録

- 日時：2025 年 1 月 13 日(月) 10：00～12：00
- 場所：前橋市市民活動支援センター 3 階 会議室
- 出席者：19 名 参加者名省略

1. 講演

- 講師：群馬県 知事戦略部 グリーンイノベーション推進課 再生可能エネルギー推進室 主任 松田貴之氏
- 演題：「再生可能エネルギー及び水素の利活用に関する群馬県の取り組み」
- 内容
 - ① 国のエネルギー政策に関して第 7 次エネルギー基本計画の説明と、2040 年におけるエネルギー需給の見通しについての説明
 - ② 再生可能エネルギーの種類と特徴に関する説明
 - ③ 「群馬県地球温暖化対策実行計画 2021-2030」の計画概要と群馬県の温室効果ガス排出量削減目標や再生可能エネルギーの導入目標と現状の達成状況についての説明があった。群馬県のポテンシャル、可能性と 2050 年に向けた「群馬 5 つのゼロ宣言」との関連や実現に向けての制定した各種条例の内容の説明があった。
 - ④ 再生可能エネルギーの導入促進に向けた群馬県の支援策として、住宅用支援策や事業用支援策の紹介があった。
 - ⑤ 水素の利活用の動向として、県が取り組む板倉ニュータウンでの「地域マイクログリッド事業及び水素利活用事業」の紹介があった。
- 質疑応答
 - ・群馬県が管理運営する水力発電と市町村・発電事業者が行うものはどういう基準で区分されているのか。
 - 企業局が管理している水力発電施設は比較的小規模である。大型発電設備は主に東京電力等が管理運営している。
 - また、小水力発電の可能性のある堰堤調査に関しては県が調査を行ったが、県がすべて開発を進めるということではなく、広く市町村や電力事業者に情報提供するとの意味合いもある。
 - ・今回の説明は主に電気エネルギーへの取り組みが主だったが、エネルギーは電気だけではなく、化石燃料や熱エネルギーの利活用も重要な創エネの要素である。その点に関する県の取り組みはどうか。

- 草津町の温泉水利用によるバイナリー発電の調査・検討が進められている。
- ・水素製造・貯蔵・運搬技術について企業局が産学に対して 2024 年補助事業を推進しているがどんな状況か。
- 別部局の取り組みのためこの場では回答できない。
- ・東京電力が行っている赤城山での地熱発電調査の状況は群馬県として把握しているのか。
- 逐次、事業者から進捗状況についての情報提供をいただいている。
- ・群馬県の環境基本計画の項目に「脱炭素社会の実現に向けて」があり、その具体的な施策として「温室効果ガスの計画的排出削減」があるが、取り組み内容が太陽光発電設備の設置や省エネの取り組みが中心となっており、“温室効果ガス、とした意味が分かりづらい。CO2 削減以外のメタンガス削減等の取り組みを教えてほしい。
- 後日確認して回答する。

2. 定例会

(1) 報告事項

- ① 小川町里山視察(堆肥熟成場、メタン発酵施設等の見学)11/24
- ② 公共交通やエコモビリティ利用の実践(横川めがね橋、アプトの道散策)11/30

(2) 協議事項

- ① 2025 年度の部会活動計画(案)の素案について説明
- ② 今後の進め方
2/20 までに部会員の皆さんから、さらにアイデア・提案をいただき、次回の定例会で協議し、次年度の活動内容を決定する。

■ 次回定例会の予定

日時：2025 年 3 月 9 日（日） 10：00～12：00

場所：前橋市市民活動支援センター 3 階 会議室

内容：「次年度の活動計画の検討・決定」ほか

以上